



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第6号 2020年6月発行

このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、ビエンチャン市、ルアンパバーン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

新型コロナウイルス、あるいは COVID-19 は 2019 年 11 月に発見され、急速に世界中に感染が広まり、大きな混乱をもたらしています。ラオスでは、関係者による努力の成果もあり、感染者 19 名、死者 0 名と他国に比べるとうまくコントロールができています。しかしながら、政府職員及びプロジェクトスタッフは 2020 年 3 月下旬から 5 月初旬まで在宅勤務をしなければなりません。対象農家を含めた一般の人々も移動が制限される等の措置がありました。日本人スタッフ 3 名も 2020 年 3 月下旬から 4 月上旬にかけて日本へ一時退避帰国する必要性がありました。2020 年 6 月初旬現在で、いつラオスに戻れるかの目途はたっていません。このような状況下で、本号はラオスの有機農家がどのような対応をとっているのかを報告します。

1. ビエンチャン市の一般的状況

新たなウイルス性の感染症である COVID-19 は、ラオスにおいても経済面で大きな影響を与えています。それはビエンチャン市の有機農家についても同様です。特に 4 月は政府が人々の行動を制限した時期で、有機農産物の生産・販売に多大の影響がありました。この間、ビエンチャン市の有機農家グループは、感染を防ぐため政府の指示に従って行動しました。

ビエンチャン市有機農家グループ長のカムプー・パンタブン氏がインタビューに応じてくれました。COVID-19 の感染予防・管理・問題解決のために特別に設立された委員会並びに商工省の指導に従い、市場を開設する前に殺菌消毒を行い、市場を新たに配置しなければなりません。テントごとに 5m の間隔をあけて、買い物客が歩く道を広く設けて、販売者との距離を開けるようにしました。また販売者

も買い物客もマスクをしなければなりません。もし所持していない人がいれば、入り口でマスクを配りました。入り口は一か所として買い物客用に体温計と消毒液を準備しました。

しかしながらこの期間中、プラスの出来事もありました。他の慣行市場のいくつかが一時閉鎖されたことにより、4 月と 5 月の OA マーケットの売り上げが、それ以前と比較して伸びています。特にオンライン（Facebook 及び Website）を通じて販売を行っている Organic Home 社の 4 月と 5 月の販売量はそれ以前と比較して 3 倍に伸びています。

その他、社会活動として COVID-19 感染防止活動を行った警察と病院の医療従事者や郡の関係者に対して、ノンテー村の有機農家グループは飲用水と食事を提供しました。



緊急事態宣言下の ITECC・OA マーケットの様子

2. ビエンチャン市の暴風雨被害

ビエンチャン市の有機農家は、コロナウイルス対策だけでなく、別の問題に直面しなければなりません。5月7日の夕方及び5月10日の夜間にビエンチャン市及びその周辺域に暴風雨の被害を受けました。ビエンチャン市パーク郡タサン村のグ

リーンハウスとドンナソーク有機市場のテントの多くが損害を受けました。タサン村のグリーンハウス 50 棟が損害を受け、その被害額は 2 億 Kip (約 243 万円) と見積もられています。ドンナソーク有機市場では 12 棟、3 つのテントが損害を受け、その被害額は 1,500 万 Kip (約 18 万円) と見積もられています。



タサン村グリーンハウスの暴風雨被害の様子



ドンナソーク OA 市場の暴風雨被害の様子

ビエンチャン市 OA マーケット委員会は問題解決方法を模索しています。ラオス ITECC の OA マーケットのテントを借りる等の対応をしています。これは有機農産物を購入してくれる消費者のことを

第一に考えての対応です。

3. シェンクワン県の一般的状況

COVID-19 の感染はシェンクワンの有機農家グループにも影響を与えています。特に農家の収入減少が起きています。感染を恐れて、村から出て有機市場に生産物を売りに行かない農家が何人かいます。また感染予防対策として、状況が改善するまで OA マーケットの開設はシブンフアンの一か所に限定されています。新しいシェンクワン・プラザの OA マーケットは一時的に開催されていません。

この時期に生産物を販売しているのは、ヨーム村、モーン村、ポントーン村といった近隣村の農家に限定されています。遠隔に位置するムアン村、カーイ村、カンヴィアン村、マンソム村の農家は販売が行えませんでした。ペーク郡内の村では感染予防のために移動制限が行われたために遠隔地にある村落の農家は有機市場での生産物の販売が出来ず、多くの農産物が放棄されることになりました。上記遠隔の 3 村では廃棄量が 1,150 kgにも及び、金額にすると 1,042 万 Kip (約 13 万円) で、全生産物の 27%にも上りました。

同時にペーク郡内の病院、レストランからの有機農産物の注文が減少しています。また、農家は農産物栽培のための各種資材購入のための移動が困難な状況です。結果、継続的な販売を行うための生産物の提供が難しい状況です。



ペーク郡職員による有機農家へのモニタリングの様子